筑波學生新聞

発行所
筑波大学学生新聞会
編集代表
前田 慎二
茨城県新治郡桜村筑波学園郵便局私書箱29号
TEL 0298(52)4460
振替 宇都宮6—31450

号外

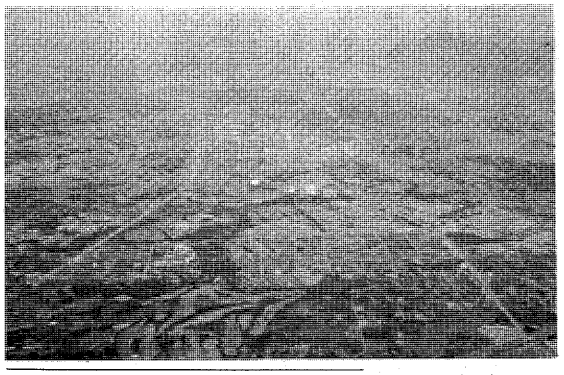
筑波大関係者も立候補

〈元学生〉〈院生〉〈参与〉

なーんも知らん学生!?

桜村長選 投票は16日

沼尻庄男村長の急死とともなう、桜村長選は、一月九日告示され、十六日投票、即日開票されるが、今回の村長選には、「元学生」「院生」「参与」の筑波大学関係者三名が立候補、他の二候補とともに激戦を繰り広げることとなった。新春話題のポルノ映画『女子大生……なーんも知らん親』（原作、脚本、主演すべて女子大生）ではないけれど、これまで地域の政治に「なーんも知らん」を決め込んでいた筑波大生にとって、文字通り、主演＝筑波大生のドラマが展開されかねない情勢となってきた。はたして、学生がどう選択するか注目されている。



今回の選挙に立候補しているのは、矢口幸次氏（元務店経営・六八歳）、堀内昭三氏（弁護士・四六歳）、村上仁一氏（桜村村議・三一歳）、堀みつるき氏（共産党県委員会筑波研究学園都市対策委員長・四一歳）、吉川けんじ氏（R・S・経営・二五歳）の五氏。

矢口氏は五期通算二十年間桜村村議を務め、議長二期を歴任しており、今回は前村長の滝沢助長術を受けるなど旧村部住民票をバックに立候補。旧村部には「新住民には村長を任さない」とする声も強く、「軒先を貸して母屋をとられるな」と旧村部中心に運動を展開している。

堀内氏は東京教育大卒の弁護士で、筑波大学参与、茗渓会理事でもあり、筑波大学の顧問弁護士でもある。茗渓会の票を基礎票に、新住民の票を中心に狙っているが、桜村出身の県会議員の飯岡章氏も支持している。

村上氏は、筑波大学院農学研究科に在学中で、80年以来、桜村議を務め、今回の選挙でもボランティアの学生・主婦らの応援を得て、草の根選挙を展開。新旧住民の調和と交流を目指す。

堀氏は共産党県委員会学園都市対策委員長を務めており、労組や新住民を中心とした革新票に狙いを定めている。

吉川氏は元筑波大生（情報）。在学中は、79学園祭実行委連絡局長を務める。現在、筑波大の生協を自指すR・S・を経営。リサイクル活動でできた地域とのつながりや学生を中心に票を狙う。

このように、五人の立候補者が三人も立候補したことが特に注目される。

筑波大参与の堀内氏の出陣式には岡部二郎学都資金財団理事長など大学関係者が駆け付け、あいさつするなど堀内氏の大学・茗渓会とのつながりの深さを示唆した。しかし、堀内氏が告示取り訴訟や処分取り消し訴訟で、大学当局側の弁護活動をしているとから学生との関係は微妙である。

昨年十二月に行われた県議選で、平砂学生宿舎投票所は約28%の投票率であった。投票数は約千票。一方、旧村部の投票所においては投票率は軒並み80%を超えたにもかかわらず、投票数は劣りが千票以上となっている。つまり、筑波大生に対して約三千票の浮動票が眠っていると言ってよい。今回の選挙において、当選ラインは四、五千票とも七千票とも言われているが、この眠っている二千票の行方が、桜村村長の座を左右する可能性も大きい。

今回選ばれる村長は六カ村合併、科学万博等の様々な問題に取り組む必要があり、まさに桜村の転換期の村長と言えよう。

地域参加の思想を

桜村は研究学園都市の建設以降その中心的な存在として発達してきたが、多くの研究施設以外には、特に産業が発展する基盤を持っていない。そこへ八五年をめどに学園都市の管理にあたっていた住宅公団が手を引く。その結果施設が公団から国の所有になるため、公団が桜村に払っていた固定資産税（昨年度三億七千万円）が入らなくなる。また学園都市全体で年間五億円支給されている特別交付金も、八五年で打ち切られる。さらに毎年二億円近い伸びを続けてきた個人村民税も、公務員ベアの凍結から自然増収の伸びは期待できない。以上の状況から桜村財政は八五年には破綻し、その結果として、医療・公共交通などの住民サービスが充分出来なくなる危険性が高い。

このような状況から合併問題が浮かび上ってくる。

桜村単独でなく、六カ町村が合併した上で全体として財政危機を回避できる可能性が高いとされている。

考えてみれば、学園都市は、政府の科学技術推進政策によって、一兆円を超す投資を受けた。陽のあたる場所だったかもしれない。だが、その投資の結果、独自の財政では維持できなくなったのが、現在の姿と言えよう。その高いツケを回避するための手段として、国や県が主体となって、六カ町村合併の話が持ち上がっている。「頭脳都市」「二十一世紀の都市」のキャッチフレーズの基底には、補助金漁りの都市造りの矛盾と、利権の配分をめぐる分取り合戦が存在しており、「軒先を貸して母屋を取られるな」と言う旧住民の主張と「六カ町村職員はレベルが低い」と言うエリート学者の発言は、矛盾の両面でしかない。本紙二月号で、むのたけじ氏は「住めば都とは、ここしか勝負どころはない」ということなんだ。東京から都落ちした人じゃないわけだ。今の若い人は、住むなら都だから民主主義と逆の風潮、本物の文化は前代、未聞の不作だと指摘している。筑波大生が、自分の足下を見ることから、村の明日も変ってゆく可能性がある。（三面に関連記事）

国際関係学類 政府予算案に計上

社会 入試出題拒否へ

八三年四月開設を目指し準備の進められていた国際関係学類は、八三年度政府予算案の中で正式に計上された。

一方、昨年十月二十日付けで国際関係学類の昭和五十八年度開設を「再検討する」ことを内容とした「要望書」を教行部に提出していた社会科学系では、十二月二十二日の教員会議で、「「要望書」に最終的に解答のない限り、国際関係学類の五十八年度入試には協力しない」等を正式に決議、大学執行部の独走に反発を強めている。

また、今回の選挙では大学関係者が三人も立候補したことが特に注目される。

筑波大参与の堀内氏の出陣式には岡部二郎学都資金財団理事長など大学関係者が駆け付け、あいさつするなど堀内氏の大学・茗渓会とのつながりの深さを示唆した。しかし、堀内氏が告示取り訴訟や処分取り消し訴訟で、大学当局側の弁護活動をしているとから学生との関係は微妙である。

昨年十二月に行われた県議選で、平砂学生宿舎投票所は約28%の投票率であった。投票数は約千

社会科学系・社会学類教員会議によって提出された先の「要望書」に対して、大学執行部は十二月八日、松浦悦之副学長は荒蒔学長代理・三潴信邦学類長と非公式に会見し、簡単な事情聴取を行った。またその後、社会科学系に対し、執行部より八三年度の国際関係学類の入試業務に関して協力が要請された。これを受けて十二月二日の同学系の教員会議では、○大学執行部より要請を受けた出題委員及び実施委員は、「要望書」に対しての回答がない限り社会科学系からは出さない◎全学の教員、約千二百名に対して「要望書」に送付する、の2点が決議した。

この件に関し荒木副学長は「お互い譲り合って解決の糸口を見いだしたい」としているが、八三年度政府予算案に国際関係学類分が計上されたため、事実上の"見切り発車"となった。学内コンセンサスを無視した学類新設は今後に大きなしこりを残したと言えよう。

感度全開。ジャーナリスト・アイ!

スターリン（AKUAKU）

正確な情報と新鮮な視覚でとらえたニュース記事、「つくば村変貌」や、「点描・男と女」に続く興味シンシンの企画記事、そして特集企画では、あなたの日常の死角を記者が体当たりで探り出します。筑波学生新聞はもう、感度全開です。

来年度定期購読のお願い

現在、定期購読中の方も、店頭でお買い求めの方も、郵便局に添えつけの振替用紙に、お名前、4月からの住所を明記の上、金千円を御入金下さい。（振替え番号 宇都宮6—31450）これで、4月から1年間、毎号確実に筑波学生新聞がお手元に届きます。もちろん、ご一報下されば、常識的範囲で小会の健脚営業部員が、あなたのところへ伺います。

筑波大学学生新聞会 TEL0298(52)4460

筑波學生新聞

各候補者に聞く

村民のくらし守る
堀みつふさ候補
共産新

——合併問題についてどのように考えていますか。

合併については賛成、反対両論ある。これは各個人、団体の要求を実現できるかということが別れめになっている。このような種々の要求を具体的に整理して、本当に合併しなければ解決できないかを考えてみる必要がある。現在の合併論は国の方針に乗った、宙にういているようなもので、桜村のためになるとは思われない。

——合併したければ、財政、また行政の面で多くの不利な面が出てくると言われていますが。

85年までに研究学園都市を20万人都市にするというのが、国の当初計画であった。それが計画通り実現せず桜村の負担は増えているのに、特別交付金だけ計画どおり、85年で打ち切りというのは、国が責任をとろうとしていないのである。その一方で国は軍事費を増し、教育、地方自治にしわよせを行なっている。これに対して地方自治体は厳しい、国民生活の安定、福祉のために予算を使うように働きかけねばならない。国の政策を抜きにして地方自治体のあり方もないと考えている。

——桜村の課題として研究学園都市地区と周辺開発地区との格差是正がありますが。

何が格差なのか、内容を明らかにし、それを一つ一つ具体的に解決していくべきだ。例えば汚水の処理にしても、下水道をひくのがよいか、または土壌浄化法など新しい技術を応用するのがよいかなど、それぞれの問題と地域の実情に適した解決法を考えなければならない。格一的都市にすることが格差是正になるとは考えていない。

——村の政策として特に行なわなければならないと思われることを挙げてください。

医療施設の充実、メディカルセンターを中心にネットワークを行いたい。また無料老人医療を継続します。交通問題では東京とのアクセスを充実したい。また域内交通では循環バスの運行、通学路の安全対策などを行いたい。文化面では図書館、ホールの建設などがありますが平和を強調したい。最先端技術をかかえる研都市に自衛隊が研究者を派遣したり、軍事研究が行われるという動きを排除し、学園都市、日本の平和を守らなければならないと考えています。

周辺地域の整備を
堀内昭三候補
無所属新

——合併問題についてどのようにお考えですか。

結果的には合併せざるをえないでしょう。例的な合理的な行政、都市計画などで合理的な行政を行うためには合併は必要です。しかし、現在の合併推進の動きは主に国、県の働きかけによるものですが、合併に当たって最も重要なのは住民の意向がどうであるかです。現在桜村議会でも合併推進議連が結成されていますが、私はどれの結論を出すのは、数回住民に対して合併問題について公聴会を開き、充分に住民の意思を聞いた上で審議してもらいたいと思います。

——合併についての課題、たとえば谷田部町が合併に難色を示していることや、合併後の広域行政についての構想などをおきかせください。

まず合併については、六カ町村一挙合併が無理であっても、谷田部町を含まない合併は意味がありません。

また合併後の広域行政については個人的な構想はありますが、今は言える状態ではありません。今は、都市は町村よりも桜村、桜村民のために考える時だと思います。ただ言えることは、合併後の新都市において、今まで桜村が研究学園都市の中心地であったように合併後も中心地区になれなければ、またそのような合併でなければ意味がないと思います。さらに合併後に特別交付金の支給が継続されるよう国に要請しなければならないと思います。

住民本位の村政に
村上仁士候補
無所属新

——合併問題についてどのようにお考えですか。

避けて通れない問題だとは思う、しかし学園都市の合併がないとはいえない、住民の利益に最もふさわしい方法は何かを模索したい。

合併には解決しなければならない問題が次の三点ある①住民、議会、自治体首長の意向②主管機関である県、国の意向③法的、行政関係及び各町村の総合開発計画の調整。①ですべての町村の意向が得られておらず、③が進展していない以上、国や県のいう今年十一月の合併は無理でしょう。住民の方には説意をもって話しあえば賛同が得られると思いますが、各町村の条例や公共料金の相違などの調整。また開発計画の調整では利害が一致しないなど、難航が予想されるからです。

——合併しなければ財政、また行政の面で多くの不利な面が出てくると言われていますが。

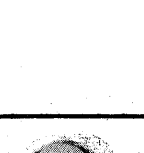
広域行政については合併によらなくても筑南事務組合のような事業組合による行政サービスの代行が可能です。学区についても現在一つにしかかれていますが、これは適時パターンすれば解決できます。財政については国にもっと予算を出させることができます。緊縮財政といわれる来年度予算の中でも三つだけ伸びているものがあります。防衛費、国際開発援助費、科学技術研究費の三つです。研究学園都市は日本最大の研究都市であり、また外国の賓客が訪れるなどきわめて国際的な存在でもあります。したがって研究活動を行うにふさわしい環境整備に投資サービスを行う必要があるのであるからそれを実現するだけの予算を民主的折衝で得ることです。限られた予算を充分に住民のために使うことが新村長に求められることです。

——村の政策として特にあわなければならないと思われることを挙げてください。

いま重要なのは救急医療体制の確立です。私は救急病院を建設する必要があります。しかし救急病院は、十四時間体制なので運営費、建設費をいかに負担するかが課題で、国、県と折衝しても負担してもらう必要がありますが、多少の財政負担も覚悟してこれを実現しなければならないと思います。また医療問題では専門医、特に耳鼻科医の不足が目立ちます。これらの専門医も招やさなければなりません。

どう拓く次代の桜村

ビジョンある都市造り
矢口幸次候補
無所属新



——合併問題についてどのようにお考えですか。

研究学園都市以外の周辺開発、市町村合併特別法の期限切れの問題、関係六カ町村の首長、議員の任期、数十年間催の科学万博への対応などを考え合わせると、早期合併が望ましいのではないか。村民の意向を尊重しながら、合併へのビジョンを確立したうえで、合併に踏み切るべきだと思う。

ただし大きければよい、という ものでもないので、合併する際の都市づくりを明確に打ち出すことが大切でしょう。村民の意向を聞くには地区ごとの座談会を行い、その場で出た質問には具体的な回答をし、その実現には国、県にも働きかけていきたいと思っています。

——桜村の課題として研究学園都市地区と周辺開発地区との格差是正があります。

学園都市は政府が直接投資してつくりあげたものですから、周辺地区までこれを真似ようとしても無理があります。周辺地区は、学園地区の都市機能を生かした地域整備が大切です。たとえば農業基盤を整備して、土地の集約を図り、都市近郊型の省力、多収穫農業に転換する。そうしなければ優秀な農業後継者は育ちません。自立できる専業農家が数多く生まれるようにすれば、余剰労働力ができますから、地元で働けるように工場を誘致します。

——合併後の都市のあり方についての考えをお聞かせください。

六カ町村が合併すれば研究学園都市は一つの自治体になり、この世界的な頭脳・研究都市を司るにはかなりレベルの高い人が首長になるべきでしょう。新首長が選出されるまでは暫時、六人の首長の合議によって行政を行い、各町村間の摩擦をなくし、一体化させることが必要と思います。

自立した自治体へ
吉川けんじ候補
無所属新

——合併問題についてどのようにお考えですか。

合併以前に、研究学園都市の建設の時から考えてみると、学園都市ができて便利になり、雇用も増えるといって建設したのに現状はすこしも良くなっていない。合併によって切り捨てようとしても基本的な問題は発化しない。その地域からの税金は変わらないのに膨大な維持費のかかる施設をおしつけて住民にしわよせする国の政策が本来おかしい。

——合併しなければ、財政、また行政の面で多くの不利な点が出てくると言われていますが。

もし合併することによって当面の問題を回避し、財政を立て直すことができたとしても、現在の国、県主導の合併は、国の重点政策によるものであり、全体として利益があがったとしてもそれは研究学園都市地区への再投資され、ますます格差が広がる結果になる。言いかえれば学園都市地区に住む人達はまわりの人々の犠牲の上に成りたっている。

桜村が自治をしりぞけるには、国の方針からはなれて格差をなくすように努力し国から補助金をもらってバランスさせる。こうして補助金によらなければ生きていけないような村を作った国に責任をとらせる一方、そのようなものこそ自立できる自治体にしなければならないと思います。桜村は最大の村であることで地方自治の弱点が端的に表われていると言えます。

——科学万博、新交通システムについてはどのような考えをお持ちですか。

科学万博に何億円も投資されるといっても、それは一時的に金が動くだけであり、村は潤かにはならない。むしろ、その結果都市機能に悪影響をおよぼし、万博後の混乱が行政に押しつけられる形になる。新交通システムについても同様で、本来ある程度人口が集中しなければ機能しないものです。万博終了後の維持費をまた国にたよらなければならなくなるでしょう。このような状態は桜村の地方自治の破壊です。豊かな生活、幸福というものが、新しい施設を作れば実現できるという考え方がおかしいのです。既成のシステムを根本からつくりなおして、どれだけ可能かということを計ることが先決です。

周辺地域の整備を
堀内昭三候補
無所属新

——合併問題についてどのようにお考えですか。

——桜村の課題として研究学園都市地区と周辺開発地区との格差是正があるかと思います。

格差といっても旧地区、これを私は旧地区と呼んでいますが、この中でも花室、要木のように学園都市の恩恵を受けて発展している地域と仲根や栗原のように受けていない地域があります。ですから整備が必要であるわけです。基本的には工場の誘致、住宅地の建設などを通してそれらの地区に公共投資を行うということです。

——具体的に工場誘致などを行うためにどのような事を考えていたいと思いますか。

重要なのは新交通システムの完成です。将来は牛久ルートと土浦ルートのクロスプランの実現が望ましいのですが、現在問題としては科学万博までに土浦ー桜ー谷田部ルートを完成し、科学万博会場への足とします。そしてその後は新交通システムの駅を中心とした開発を進め、土地整備を行い、工場を誘致するということです。さらには私立大学を誘致し、人口の定着を図りたいと考えています。

——合併しなければ財政、また行政の面で多くの不利な面が出てくると言われていますが。

合併は無理なら、国、県の意向②主管機関である県、国の意向③法的、行政関係及び各町村の総合開発計画の調整。①ですべての町村の意向が得られておらず、③が進展していない以上、国や県のいう今年十一月の合併は無理でしょう。住民の方には説意をもって話しあえば賛同が得られると思いますが、各町村の条例や公共料金の相違などの調整。また開発計画の調整では利害が一致しないなど、難航が予想されるからです。

——合併しなければ財政、また行政の面で多くの不利な面が出てくると言われていますが。

合併しなければ、財政、また行政の面で多くの不利な点が出てくると言われています。

——桜村の課題として研究学園都市地区と周辺開発地区との格差是正があります。

学園都市は日本最大の研究都市であり、また外国の賓客が訪れるなどきわめて国際的な存在でもあります。したがって研究活動を行うにふさわしい環境整備に投資サービスを行う必要があるのであるからそれを実現するだけの予算を民主的折衝で得ることです。限られた予算を充分に住民のために使うことが新村長に求められることです。

——村の政策として特にあわなければならないと思われることを挙げてください。

いま重要なのは救急医療体制の確立です。私は救急病院を建設する必要があります。しかし救急病院は、十四時間体制なので運営費、建設費をいかに負担するかが課題で、国、県と折衝しても負担してもらう必要がありますが、多少の財政負担も覚悟してこれを実現しなければならないと思います。また医療問題では専門医、特に耳鼻科医の不足が目立ちます。これらの専門医も招やさなければなりません。